

1 身近な地域の大名について調べ、幕府の大名配置の意図や大名の統制について考えよう。

(1) 展示パネル「小倉城と城主」「小笠原氏」「筑前黒田氏」パネルを見て適切な言葉を書こう。

関が原合戦の年慶長5年(1600)には、(①細川忠興)が入国し、同7年には小倉城を大改築して本拠にしました。ついで、寛永9年(1632)には、(②小笠原忠真)が小倉城に入城しました。②は、(③徳川家康)のひ孫にあたり、九州唯一の(④譜代大名)として「九州探題」を自負していました。また、現在の北九州市は、小倉藩と(⑤福岡)藩にまたがっており、その藩境は、筑前国と(⑥豊前)国の国境線に重なります。

(2) 「江戸時代の北九州」展示入り口のパネルの文と(1)の内容からキーワードを2つ探し、江戸幕府が大名配置についてどのような工夫をしていたのか考えよう。

九州の玄関や幕府の要所には譜代大名を配置した。また、転封を行うなどして、効果的に大名統制を図った。

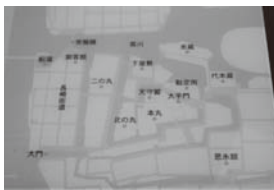
(3) 「江戸時代の北九州」の展示の中から武家諸法度に定められている大名の統制の内容に関連ある展示資料を探そう。また、その資料に関わりがある武家諸法度の内容を下から選び○をつけよう。

展示資料名

武家諸法度

1. 大名は毎年4月中に江戸へ参勤すること。
2. 新しい城をつくってはいけない。石垣などがこわれたときは奉行所の指示をうけること。
3. 大名は、勝手に結婚してはいけない。
4. 服装は、分相応なものを着なければならない。(1635年に出された「武家諸法度」の要約)

2 「小倉城下町の様子」模型や「小倉城下町」のパネルを見て、武士の住んでいた場所について調べよう。



「小倉城下町の様子」パネル

(1) 展示パネルを参考に適切な言葉を入れよう。

小倉の町は、元禄ころまでに整備が終わった。延享3年(1746)には、(二ノ丸)に家老屋敷が(三ノ丸)に上級家臣の屋敷が、そして、(西曲輪)や(東曲輪)には、武家屋敷や町屋が立ち並んだ。そして周囲には(寺院)が配された。このように城を中心として建設された町を(城下町)という。

(2) 上の図に本丸・家老屋敷・上級家臣の屋敷・武家屋敷の位置を書きこみ、屋敷の配置から気付いたことや考えたことを書こう。

海岸に近い場所に米蔵を置き、船からの積み出しをしやすいようにしている。また、二ノ丸や三ノ丸は、本丸を囲むように配置し、周辺に堀をめぐらすなど、城主を守る仕組みが図られている。

3 江戸時代が長期存続した理由を、調べたことを基に話し合おう。また、話し合ったことを裏面にまとめよう。